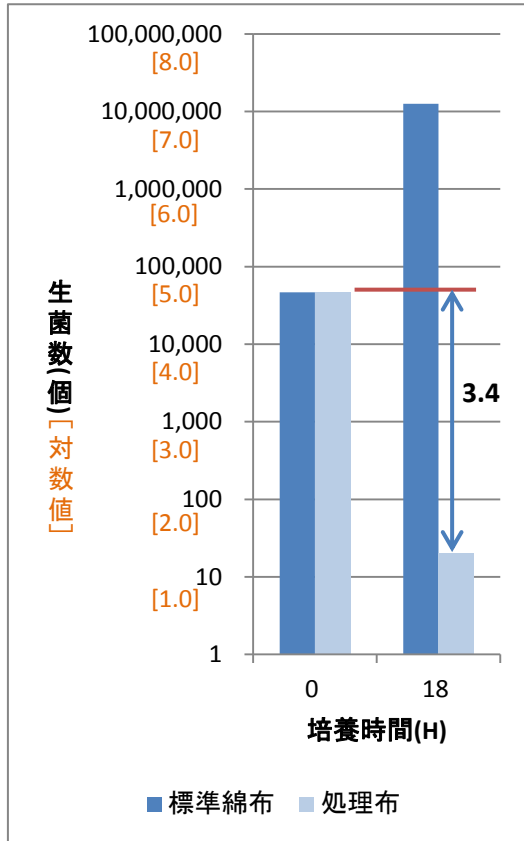


黄色ぶどう球菌

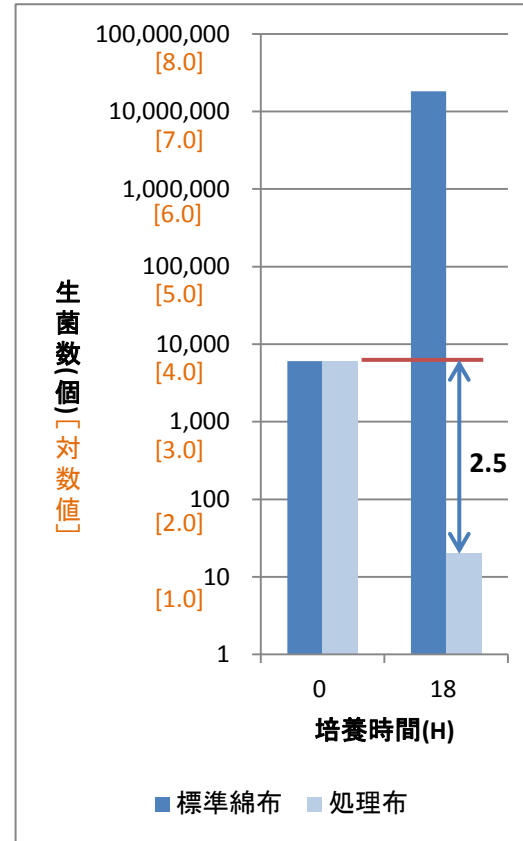
| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 4.67 | 7.10 |
| 処理布 | | <1.30 |



接種菌数: 約47,000個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約13,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個(測定限界)
【殺菌活性値: >3.4】

肺炎かん菌

| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 3.78 | 7.26 |
| 処理布 | | <1.30 |



接種菌数: 約6,000個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約18,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個(測定限界)
【殺菌活性値: >2.5】

・黄色ぶどう球菌について
接種菌数が約47,000個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約13,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個の測定限界値まで減少している。

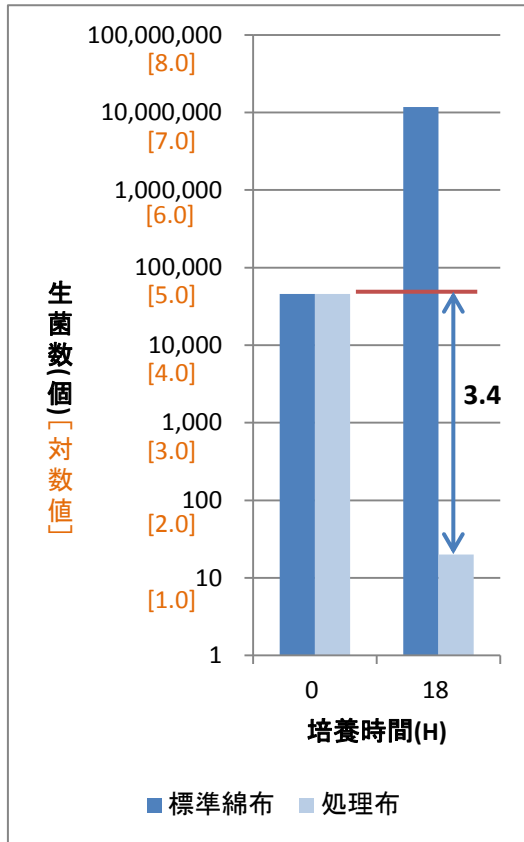
JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が3.4以上であるので、効果があるといえる。

・肺炎かん菌について
接種菌数が約6,000個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約18,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個の測定限界値まで減少している。

JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が2.5以上であるので、効果があるといえる。

MRSA

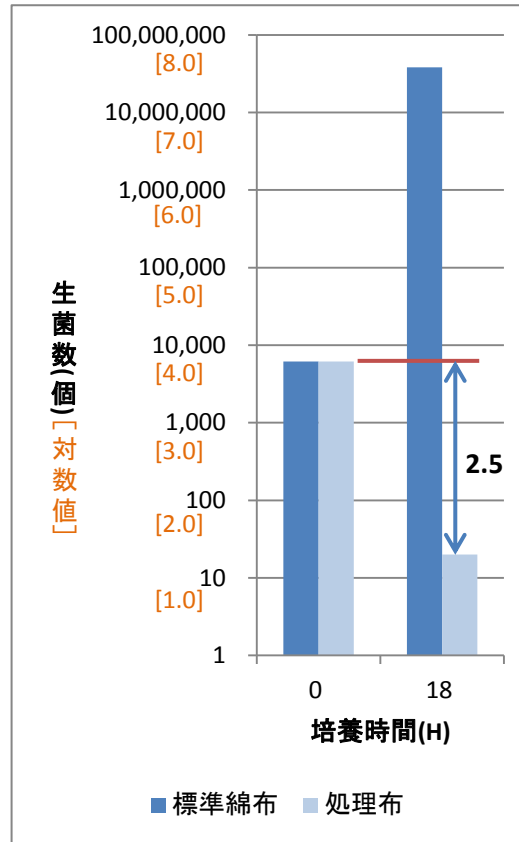
| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 4.66 | 7.07 |
| 処理布 | | <1.30 |



接種菌数: 約46,000個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約12,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個(測定限界)
【殺菌活性値: >3.4】

大腸菌

| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 3.79 | 7.58 |
| 処理布 | | <1.30 |



接種菌数: 約6,200個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約38,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個(測定限界)
【殺菌活性値: >2.5】

・MRSAについて
接種菌数が約46,000個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約12,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個の測定限界値まで減少している。

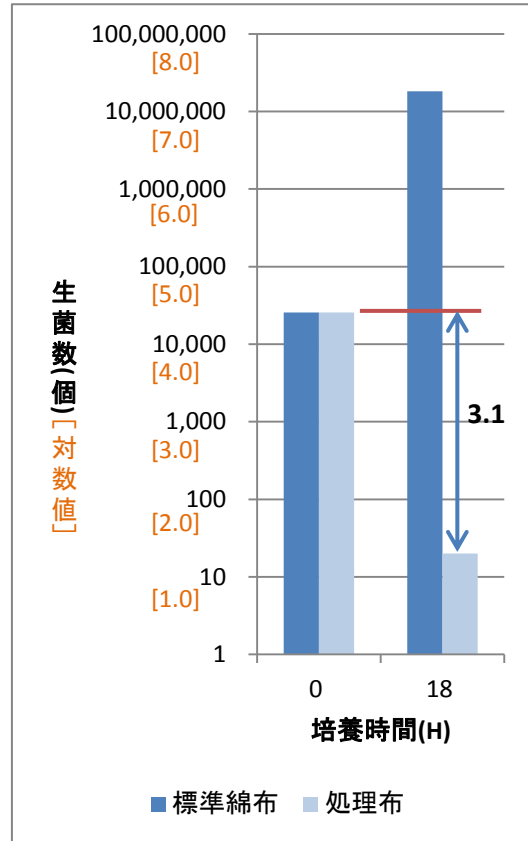
JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が3.4以上であるので、効果があるといえる。

・大腸菌について
接種菌数が約6,200個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約38,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個の測定限界値まで減少している。

JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が2.5以上であるので、効果があるといえる。

緑膿菌

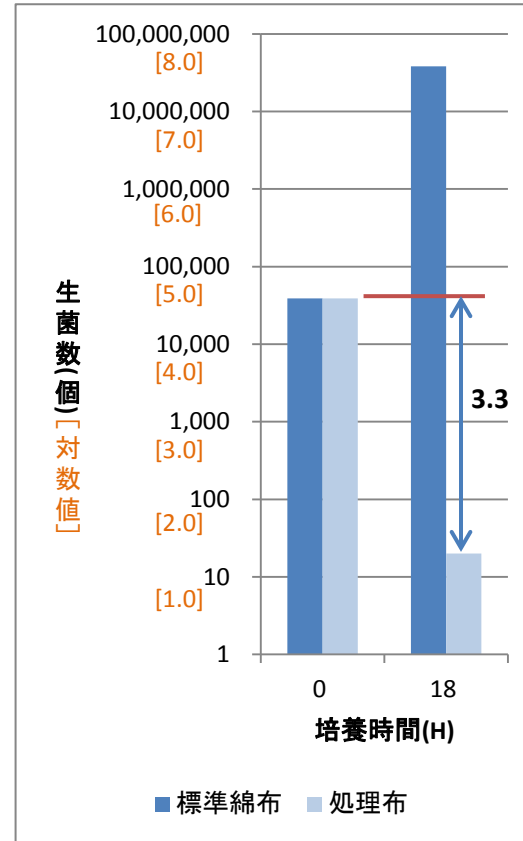
| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 4.41 | 7.26 |
| 処理布 | | 1.30 |



接種菌数: 約26,000個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約18,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個
【殺菌活性値: 3.1】

モラクセラ菌

| 検体 | 生菌数の対数値 | |
|------|---------|---------|
| | 接種直後 | 18時間培養後 |
| 標準綿布 | 4.59 | 7.58 |
| 処理布 | | <1.30 |



接種菌数: 約39,000個
未加工の標準綿布の培養後菌数: 約38,000,000個
処理布の培養後菌数: 約20個(測定限界)
【殺菌活性値: >3.3】

・緑膿菌について
接種菌数が約26,000個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約18,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個まで減少している。

JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が3.1であるので、効果があるといえる。

・モラクセラ菌について
接種菌数が約39,000個に対し、未加工の標準綿布の培養後菌数は約38,000,000個と増殖している。一方、処理布の培養後菌数は約20個の測定限界値まで減少している。

JIS L1902においては殺菌活性値が0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は殺菌活性値が3.3以上であるので、効果があるといえる。